

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

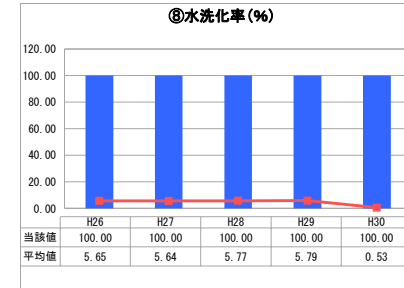
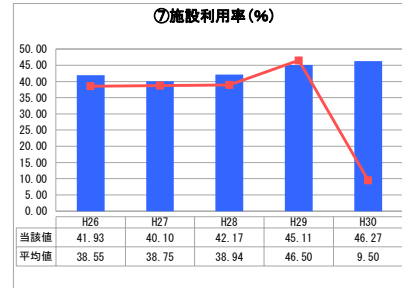
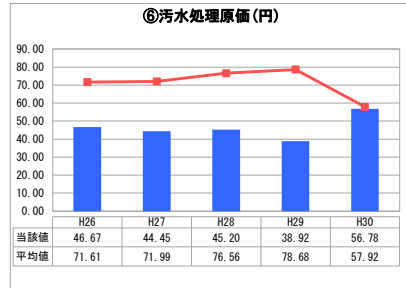
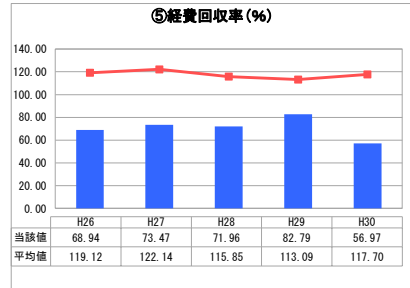
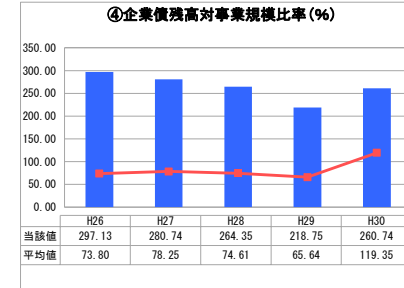
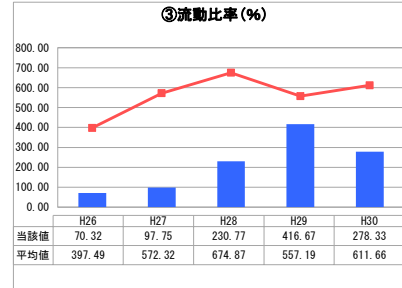
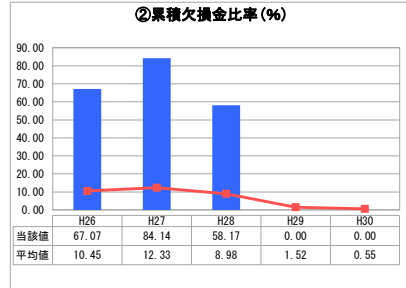
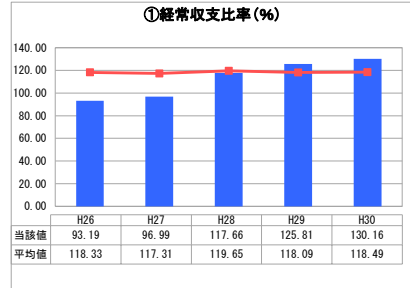
岩手県 北上市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定公共下水道	-	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	63.15	0.22	96.44	3,352

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
92,742	437.55	211.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
199	1.63	122.09

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①指標は昨年度に続き100%を超えています。しかし使用料収入は経済状況や企業動向に影響されやすく、一般会計からの補助金への依存度は高いと言えます。
- ②29年度で累積欠損金は解消しましたが、引き続き経営改善に取り組んでいきます。
- ③企業債の償還額が増加し、指標は減少しました。今後も企業債の償還の増加が見込まれることから、注視していく必要があります。
- ④指標が増加しました。企業債残高は今後も増加する見込みであることから、注視していく必要があります。
- ⑤使用料金では回収すべき経費である汚水処理費を賄えなっていないため引き続き経営改善に取り組む必要があります。
- ⑥汚水処理原価が上昇し、類似団体平均と同水準となりました。
- ⑦これまで横ばい傾向でしたが、今後新たに立地する企業により利用率の上昇が見込まれることから、今後注視していく必要があります。
- ⑧整備が完了し、受益者の接続も完了しています。

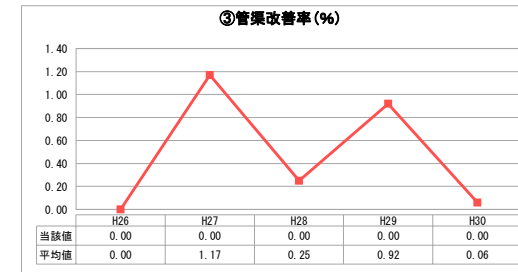
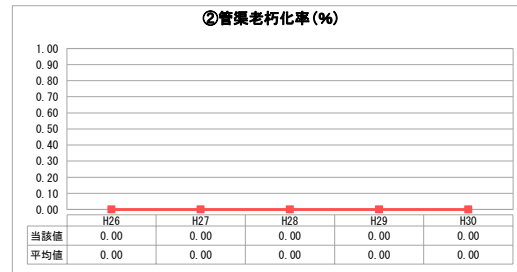
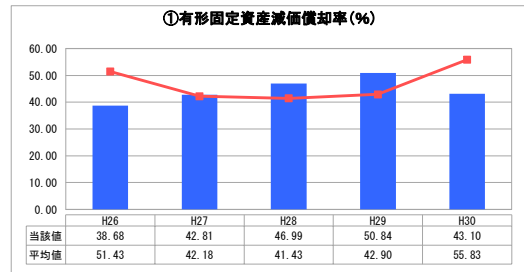
### 2. 老朽化の状況について

- ①長寿命化事業により指標は減少しましたが、今後も計画的に施設の長寿命化事業を行っていきます。
- ②法定耐用年数を超えた管渠はありませんが、今後は管渠の経過年数等を把握し、長寿命化事業等を計画的に行っていきます。
- ③法定耐用年数を超えた管渠がないことから、更新等は行っていないですが、今後は管渠の経過年数等を把握し、長寿命化事業等による更新を計画的に行っていくことと財源の確保が必要です。

### 全体総括

29年度で累積欠損金は解消されました。新たな企業の立地により使用料収入の増加が見込まれるものの、大規模な設備投資を行っており、一般会計の補助金への依存度が高い状況が続きます。一定の長寿命化工事を行っているものの、施設の老朽化は依然進んでおり、今後も計画的な維持管理が必要となるほか、設備投資も適切に行っていく必要があります。今後、効率的な財政運営を行っていくため、経営戦略を策定し、長期的な財政・投資計画の進捗管理を行いながら、強固な財政基盤の構築に取り組んでいく必要があります。

## 2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。